

しょうがいしゃさべつかいしょうえんちいききょうぎかい だい かい 障害者差別解消支援地域協議会 第1回	
R1.10.30	しりょう 資料4

## ふきゅうけいはつじぎょうとう 普及啓発事業等について

### 1 れいわがんねんどじっしじぎょう 令和元年度実施事業

#### (1) けいはつぶつ さくせい 啓発物の作成

##### ○ しょうがいしゃさべつかいしょう かか どうが さくせい 障害者差別解消に係る動画の作成

- しょうがいしゃさべつかいしょうほうおよ と じょうれい ないようとう も こ ふきゅうけいはつどうが さくせい  
障害者差別解消法及び都条例の内容等を盛り込んだ普及啓発動画を作成し、  
けんしゅうとう かつよう はか  
研修等での活用を図る。

#### (2) じぎょうしゃおよ とみんむ けいはつじぎょう 事業者及び都民向け啓発事業

##### ○ じぎょうしゃおよ とみんむ しょうがいしゃさべつかいしょう 事業者及び都民向け障害者差別解消シンポジウム

- たいしょうしゃ きぎょうとう じぎょうしゃおよ とみん  
対象者 企業等事業者及び都民
- じ き れいわがんねん がつ にち きんようび じっしよてい  
時 期 令和元年12月20日（金曜日）実施予定
- かい じょう とうきょうこくさいこうりゅうかん へいせい こくさいこうりゅうかいぎじょう とうきょうとうこうとうくあ おみ  
会 場 東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場（東京都江東区青海

#### 2-2-1)

- ない よう じぎょうしゃおよ とみん たい しょうがいしゃさべつかいしょうほうおよ と じょうれい わ  
内 容 事業者及び都民に対し、障害者差別解消法及び都条例について分か  
りやすく伝え、共生社会の実現に向けた取組が積極的に 行われるよう、  
シンポジウムを じっし  
実施する。

##### ○ じぎょうしゃむ しょうがいおよ しょうがりがいかいけんしゅうじぎょう 事業者向け障害及び障害者理解研修事業

- たいしょうしゃ きぎょうとう じぎょうしゃ  
対象者 企業等事業者
- じ き れいわがんねん がつ れいわ ねん がつ  
時 期 令和元年11月～令和2年3月
- かい じょう とない ていど ぶんかつ じっしよてい  
会 場 都内を10ブロック程度に分割し、ブロックごとに実施予定
- ない よう  
内 容
- ブロックごとに ちいき みつちやく かいさい  
地域に密着して開催することで、より地域に根差した 形で法令  
等の趣旨の普及を図る。
- かい あ さん か じぎょうしゃすう めいていど  
1回当たりの参加事業者数を、40名程度とする。
- けんしゅうないよう ほうれいとう せつめい くわ じぎょうしゃ しょうがいたいけん しょうがいたうじしゃ  
研修内容は、法令等の説明に加えて、事業者による障害体験や、障害当事者を  
講師として招き、しょうがいしゃ たいわ おこな じぎょうしゃ しょうがいおよ しょうがいしゃ  
障害者との対話を行うことで、事業者の障害及び障害者へ  
の理解促進を図る。

(3) 都職員向け啓発事業

- 障害者差別解消に係る都職員・政策連携団体向け説明会の開催
  - ・ 平成30年度に引き続き、法令や障害、障害者等に係る都職員・政策連携団体の理解促進を図る。
  - ・ 令和元年12月2日（月曜日）実施予定
- 職員を対象としたeラーニングを実施予定

2 法令に関する認知状況等について

(1) インターネット福祉保健モニター

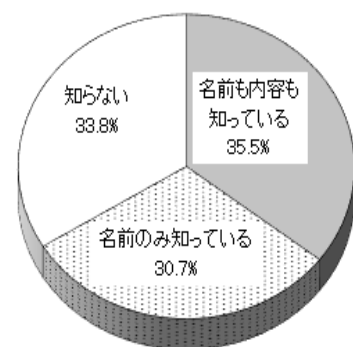
ア 概要

- ・ 福祉保健局にて、18歳以上の都民を対象に、都の福祉・保健・医療施策への意見収受を目的に実施している、インターネットでのモニター制度。
- ・ 第3回目のテーマ：「障害及び障害のある方への理解」について
- ・ 期間：平成31年1月11日（金曜日）正午～1月24日（木曜日）正午
- ・ 方法：インターネット（モニターがアンケート専用サイトから回答入力する）
- ・ 回答率：73.3%（対象モニター数：404名、有効回答数：296名）

イ 主な結果

○ 障害者差別解消法の認知度（Q10）

- ・ 「知っている」66.2%
  - 〔 「名前も内容も知っている」（35.5%）  
「名前のみ知っている」（30.7%） 〕
- ・ 「知らない」33.8%

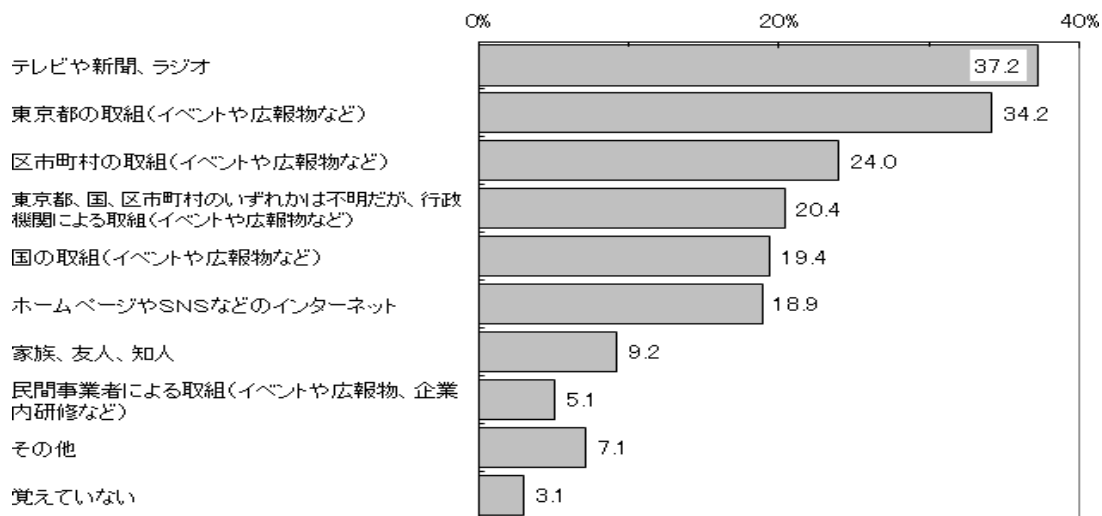


○ 障害者差別解消法の認知方法 (Q11)

【全体】(N=196)

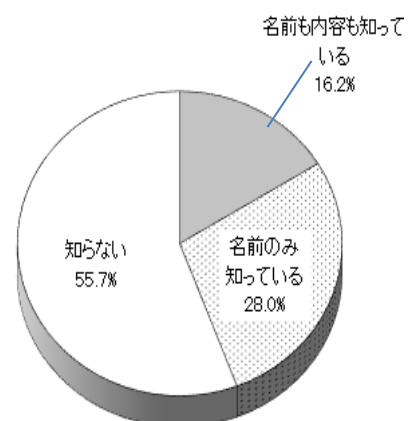
- ・「テレビや新聞、ラジオ」37.2%
- ・「東京都の取組（イベントや広報物など）」34.2%
- ・「区市町村の取組（イベントや広報物）」が24.0%
- ・「東京都、国、区市町村のいずれかは不明だが、行政機関による取組（イベントや広報物など）」20.4%
- ・「国の取組（イベントや広報物など）」19.4%
- ・「ホームページやSNSなどのインターネット」18.9%
- ・「家族、友人、知人」9.2%
- ・「民間事業者による取組（イベントや広報物、企業内研修など）」5.1%
- ・「その他」7.1%
- ・「覚えていない」3.1%

【全体】(N=196)



○ 東京都障害者差別解消条例の認知度 (Q12)

- ・「知っている」44.2%
- （「名前も内容も知っている」(16.2%)
- 「名前のみ知っている」(28.0%)）
- ・「知らない」55.7%

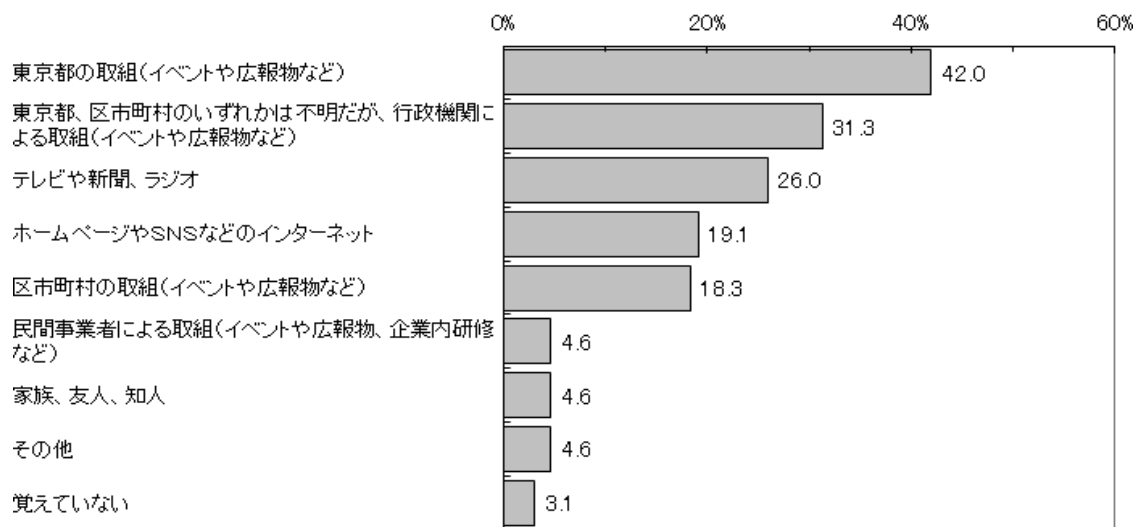


○ 東京都障害者差別解消条例の認知方法（Q13）

【全体】（N=131）

- ・「東京都の取組（イベントや広報物など）」42.0%
- ・「東京都、区市町村のいずれかは不明だが、行政機関による取組」31.3%
- ・「テレビや新聞、ラジオ」26.0%
- ・「ホームページやSNSなどのインターネット」19.1%
- ・「区市町村の取組（イベントや広報物など）」が18.3%
- ・「民間事業者による取組（イベントや広報物、企業内研修など）」4.6%
- ・「家族、友人、知人」4.6%
- ・「その他」4.6%
- ・「覚えていない」3.1%

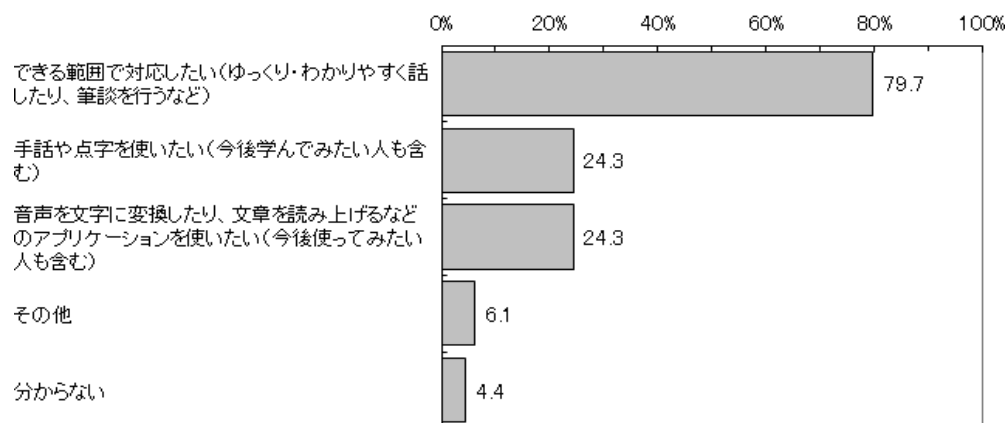
【全体】（N=131）



○ 障害のある方とのコミュニケーションにおいて支援したいと思うこと（Q14）

【全体】（N=296）

- ・「できる範囲で対応したい（ゆっくり・わかりやすく話したり、筆談を行うなど）」79.7%
- ・「手話や点字を使いたい（今後学んでみたい人も含む）」、「音声を変換したり、文章を読み上げるなどのアプリケーションを使いたい（今後使ってみてみたい人も含む）」各24.3%
- ・「その他」6.1%
- ・「分からない」4.4%



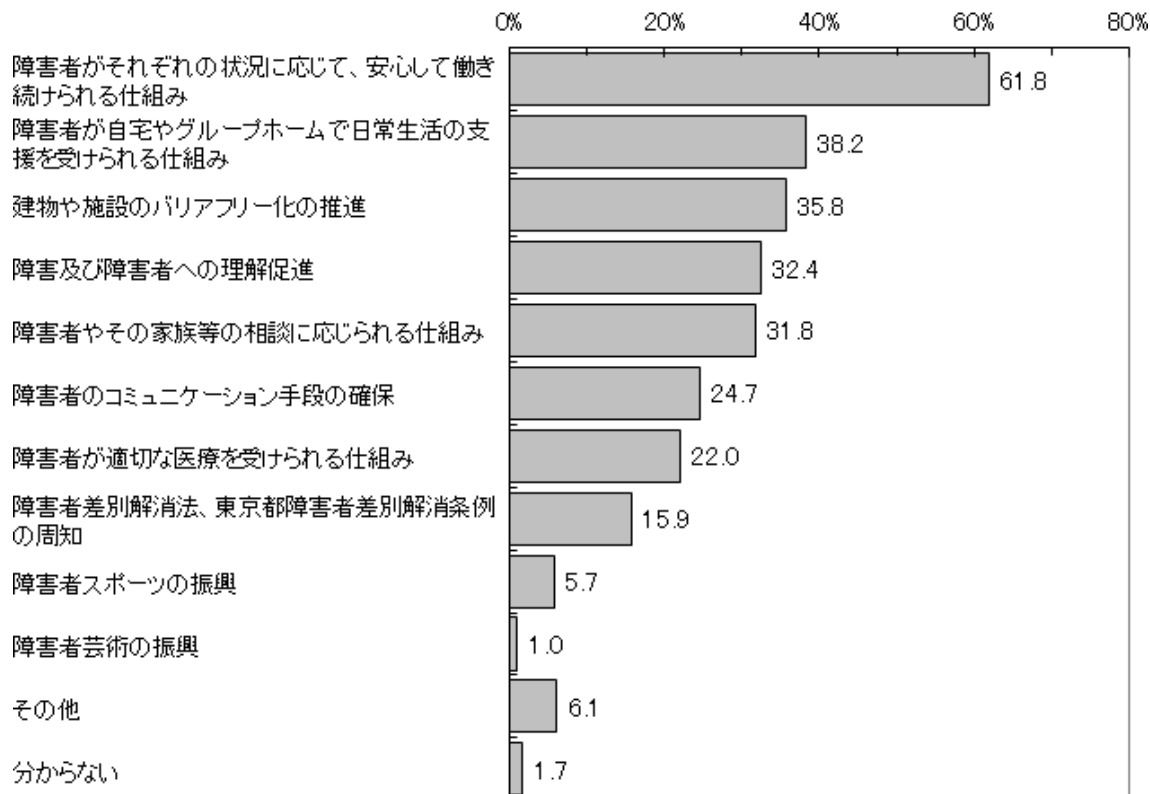
○ 障害のある人もない人も共に暮らす地域社会を実現していくために、重要だと思うこと（Q18）

【全体】（N=296）

- ・「障害者がそれぞれの状況に応じて、安心して働き続けられる仕組み」61.8%
- ・「障害者が自宅やグループホームで日常生活の支援を受けられる仕組み」38.2%
- ・「建物や施設のバリアフリー化の推進」35.8%
- ・「障害及び障害者への理解促進」32.4%
- ・「障害者やその家族等の相談に応じられる仕組み」31.8%
- ・「障害者のコミュニケーション手段の確保」24.7%
- ・「障害者が適切な医療を受けられる仕組み」22.0%
- ・「障害者差別解消法、東京都障害者差別解消条例の周知」15.9%
- ・「障害者スポーツの振興」5.7%
- ・「障害者芸術の振興」1.0%

- ・「その他<sup>た</sup>」 6.1 %
- ・「分からない<sup>わ</sup>」 1.7 %

【全 体】(N=296)



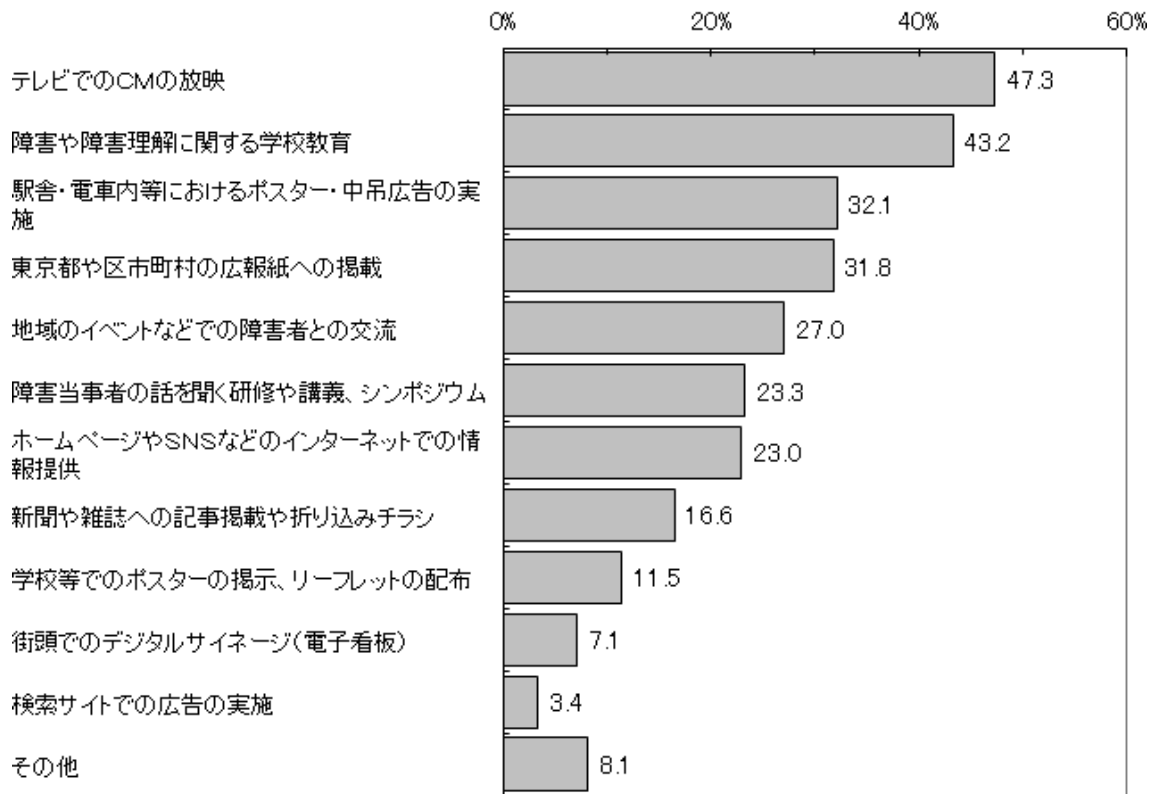
- 「合理的配慮<sup>ごうりてきはいりょ</sup>の提供<sup>ていきょう</sup>」の実現<sup>じつげん</sup>に向け、都民<sup>とみん</sup>の障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>や障害<sup>しょうがい</sup>への理解<sup>りかい</sup>及び障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>への適切な配慮<sup>しやうたいはいりょ</sup>を促進<sup>そくしん</sup>するための普及啓発<sup>ふきやうけいはつ</sup>として、効果<sup>こうか</sup>が高いと思う方法<sup>たかおも</sup>（Q19）

【全体<sup>ぜんたい</sup>】（N=296）

- ・「テレビでのCMの放映<sup>ほうえい</sup>」 47.3%
- ・「障害<sup>しょうがい</sup>や障害理解<sup>しょうがいりかい</sup>に関する学校教育<sup>かんがっこうきやういく</sup>」 43.2%
- ・「駅舎<sup>えきしゃ</sup>・電車内<sup>でんしゃない</sup>等におけるポスター・中吊<sup>なかつり</sup>広告<sup>こうこく</sup>の実施<sup>じっし</sup>」 32.1%
- ・「東京都<sup>とうきやうと</sup>や区市町村<sup>くしちやうそん</sup>の広報紙<sup>こうほうし</sup>への掲載<sup>けいさい</sup>」 31.8%
- ・「地域<sup>ちいき</sup>のイベントなどでの障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>との交流<sup>かうりゆう</sup>」 27.0%
- ・「障害当事者<sup>しょうがいとうじしゃ</sup>の話<sup>はなし</sup>を聞く研修<sup>けんしゅう</sup>や講義<sup>こうぎ</sup>、シンポジウム」 23.3%
- ・「ホームページやSNSなどのインターネットでの情報提供<sup>じやうほうていきやう</sup>」 23.0%
- ・「新聞<sup>しんぶん</sup>や雑誌<sup>ざっし</sup>への記事掲載<sup>きじけいさい</sup>や折り込みチラシ<sup>おこ</sup>」 16.6%
- ・「学校等<sup>がっこうとう</sup>でのポスターの掲示<sup>けいじ</sup>、リーフレットの配布<sup>はいふ</sup>」 11.5%

- ・「街頭でのデジタルサイネージ（電子看板）」7.1%
- ・「検索サイトでの広告の実施」3.4%
- ・「その他」8.1%

【全 体】(N=296)



○ 障害及び障害のある方への理解促進について、意識、普及啓発に関する意見(Q20)

- ・「障害のある方が暮らしやすい」とは、障害の有無にかかわらずすべての人にとって暮らしやすいことにつながっている。現在は障害のない人も、自分自身のことであるという意識付けが必要と考える。
- ・障害のある方がどの程度、助けが必要なのかが分からないため、困っているようなときも気軽に声をかけにくいと思っている。具体的な例を知っていれば、対応しやすいかもしれない。
- ・障害のある方が身近にいないとなかなか理解にむすびつかない。地域のイベントなどで交流できる機会を持つといい。

## (2) グーグルアナリティクス

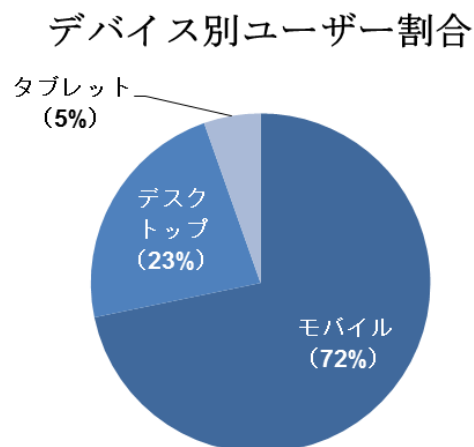
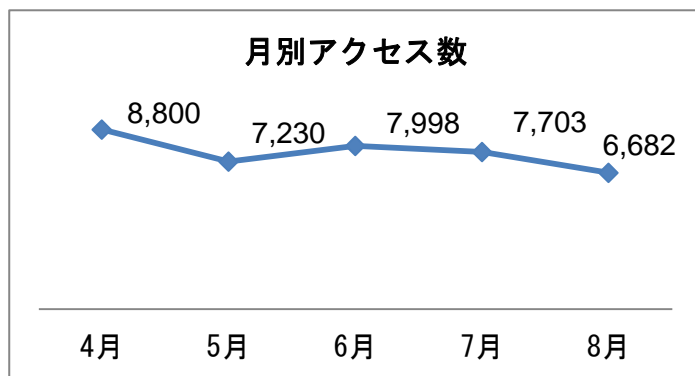
### ア 概要

- ・ Googleが提供 するアクセス解析ツールで、登録したサイトのユーザーの行動に関するデータ収集が可能。
- ・ 特設サイト「ハートシティ東京」において、平成31年3月より当該ツールを導入している。

### イ 主な結果（平成31年4月～令和元年8月）

#### ○ アクセス数・ユーザー割合について

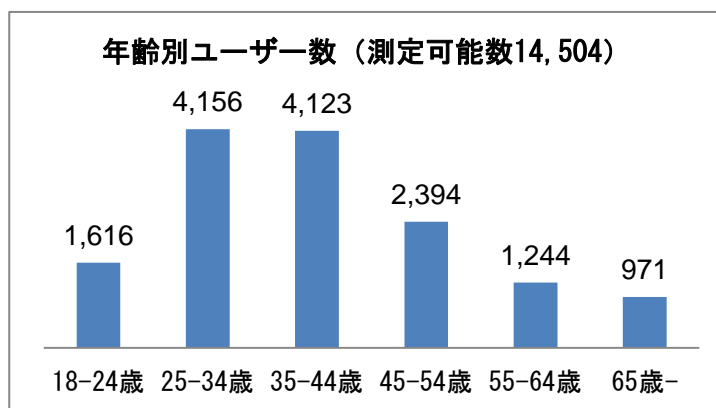
- ・ 1か月あたりのアクセス数は、約7,700件。
- ・ デバイス別ユーザー割合では、モバイル使用者が最も多く（72%）、次いでデスクトップ使用者が多い（23%）。



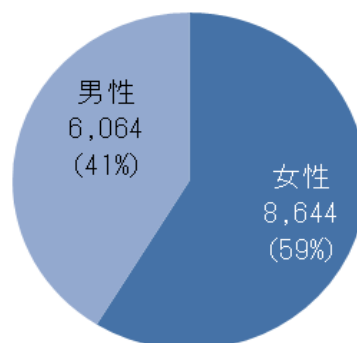
※月別アクセス数は、日ごとのデバイス別アクセス数を1か月ごとに計上した数値をさす。

#### ○ ユーザー属性について（測定可能数のみ）

- ・ 年齢別ユーザー数は、20代～40代が最も多い。
- ・ 男女別は、女性が6割、男性が4割程度。



#### ユーザー性別 （測定可能数14,708）

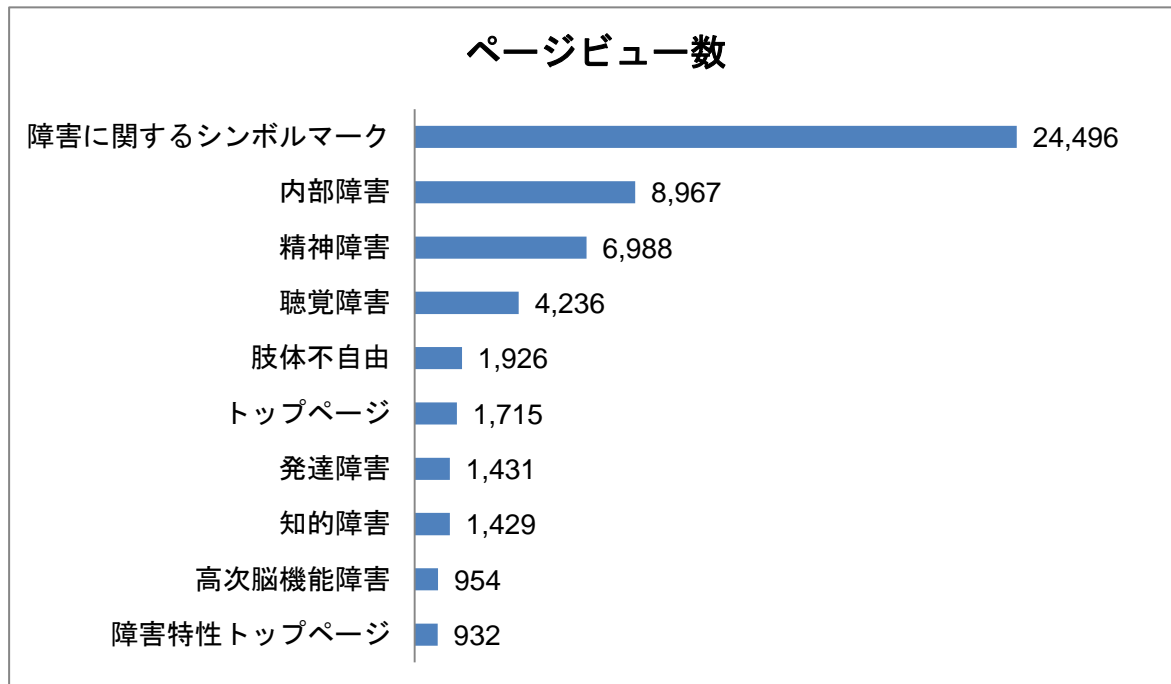




※年齢別ユーザー数・ユーザー性別の測定可能数は、それぞれ当該ツールが認識できた数値をさす。

## ○ ページビュー数

障害に関するシンボルマークの閲覧履歴が最も多く、次いで、内部障害、精神障害が多い。



※上から、「障害に関するシンボルマーク」、「内部障害」、「精神障害」、「聴覚障害」、「肢体不自由」、「トップページ」、「発達障害」、「知的障害」、「高次脳機能障害」、「障害特性トップページ」